

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531056

研究課題名(和文)国際モデルとしての「日本型」人格形成教育の考察－国際比較を通して

研究課題名(英文)The Japanese Model of Developing the Whole Child as an International Model: A Comparative Analysis

研究代表者

恒吉 僚子(Tsuneyoshi, Ryoko)

東京大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：50236931

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：今日、世界的規模でのグローバル競争が意識される中、国際学力テストでの得点の高さや経済的発展を背景に、日本の教育も国際的に評価されてきた。しかし、その内容は多分に学力偏重であり、学力面と不可分に結びついた人格形成面への視点が欠けている。だが、実際は日本の教育は仕組みとして全人志向であり、世界的に全人的な人間育成や社会性関連での育成が重視される中、日本の教育モデルが国際的議論に組み込まれることが求められている。しかし、実際は、日本から教育発信は極めて少ない。以上の結果を踏まえ、本研究では、「日本型」全人的な人格形成教育を国際的議論の俎上にのせようとした。

研究成果の概要(英文)：This project focused on the internationalization of the Japanese model of schooling, especially the Japanese model of educating the total (whole) child.

Based on the high scores of Japanese students on international tests, Japanese school education is internationally seen as having maintained a high level of instruction for decades. However, this understanding of Japanese schooling tends to be based on a rather narrow interpretation of "ability" which is linked to mastering subjects. Though the education of the total (whole) child is an official goal of Japanese education, and is built into the Japanese curriculum, this model of Japanese education has rarely been discussed in the international arena.

The purpose of this project was to make relevant information available to the international audience for discussion and the exchange of ideas.

研究分野：教育社会学

キーワード：教育 日本型モデル 国際モデル 全人的人間形成モデル 21世紀型能力資質

1. 研究開始当初の背景

今日、教育分野におけるグローバル競争の激化の中で、今まで以上に先進的だとされる国の教育モデルがグローバルに借用、参照されている。日本の教育改革においても、カタカナ文字や英文字がそのまま使われていることも珍しくない。

日本をはじめとする東アジア諸国は、国際学力テストの高さや国際社会での経済的台頭を背景に、「学力」に関連した側面では、成功例として注目されてきた。こうした文脈の中で、日本の授業研究のモデルは教師のボトムアップ的な協同的学習、民主主義的な改革として諸外国でも参照されている。

しかし、日本の教育の、こうした狭義の学力や授業実践が注目される一方、その「学力」と不可分な関係にある人格形成面での取り組みは、国際的にはほとんど注目をされてこなかった。

「日本型」においてはしかしながら、学力面での仕組みは全人的な人間形成教育と不可分に結び付いたものである。しかし、この点は、学校の公の役割が認知的・学力面に限定される傾向があるアメリカ等からの視点では見逃されやすい。

2. 研究の目的

美化された「日本型」モデルの言説とも、学力と人格面とを切り離した欧米的枠組みとも一線を置いた形で、全人的な枠組みの中で「日本型」を検討しなおし、また、その課題や可能性を国際発信してゆくことが本研究の目的である。本研究は、「日本型」教育モデルの特性、可能性や課題について以前から海外に問題提起してきた代表者の研究 (Tsuneyoshi, 2001, *The Japanese Model of Schooling*, Routledge 等) の延長上にある。

3. 研究の方法

本研究の研究目的に対応し、文献・政策の分析、「日本型」で国際モデルとして通用している授業研究モデルの検討、そして、「日本型」人間形成教育の国際発信、及び、人間形成教育に関連して、特徴的な実践を行なっている日本の学校を調査し、類型化を進めた。

4. 研究成果

日本の全人的な教育の枠組み、学力面だけでなく、人格形成面をも公のカリキュラムで方向付ける仕組みや理念を分析、それを国際的に発信して国際的議論の俎上にのせる目的は、三年間の本研究の以下のような展開から、基盤作りという点においては、果たしたと思われる。

1. 日本の全人的な人間形成教育についての英語 HP の作成
<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tsunelab/tokkatsu/>

2. 教師の研究会等からの翻訳を解説した特別活動 (tokkatsu) の英語での教師用ガイドブックを用意、HP からダウンロード可能にしている。

3. 研究代表者による、「日本型」についての海外の教師教育機関での講演やワークショップ (下記参照) 執筆。

4. 東京大学教育学研究科・学校教育高度化センターのプロジェクトとして、日本の特徴的な実践を国際発信する媒介として、ワーキングペーパー、ニュースレター等を活用する
<http://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/works/>。

5. マレーシアから日本型の全人的人間形成教育を学習しに来たり
<http://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/news/400/>、オマーンからの視察団

<http://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/news/260/> が来日する等の訪問者の増加。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

Tsuneyoshi, Ryoko. 2014. "Models of Schooling in the Global Age: The Case of Japan." *Revue Internationale d'Education de Sèvres*, le Centre international d'études pédagogiques (CIEP), online, <http://ries.revues.org/?lang=en>, June.

恒吉 僚子. 2014 「教育の場における『日本型』コミュニケーション・パターンの継承と克服」『国際行動学研究』9: 1-10.

[学会発表](計6件)

Tsuneyoshi, Ryoko. "Images of the Other in Korean and Japanese Secondary School History Textbooks," Ryoko Tsuneyoshi and Seulbi Lee, East Asian Images of Japan. 2013年9月 (International Symposium), Kyushu University, Sept. 6, 2013. Convened jointly by the Department of Education, Kyushu University Institute of Education, and University of London, Birkbeck College.招待発表。

恒吉 僚子. 第10回年次大会、国際行動学会(「異文化間で対等なコミュニケーションは可能か?」、「教育の場における『日本型』コミュニケーション・パターンの継承と克服—英語によるグローバルリーダー育成講義を手がかりに」名古屋、2013年11月。基調講演。

Tsuneyoshi, Ryoko. Nov., 2013. "The

Structuring of Character

Education: *Tokkatsu* in Japan : Some Images," keynote speaker at the International Conference on Teacher Education in the Muslim World, Redesigning Pedagogy: Transformative Value-Based Education, organized by the International Islamic University Malaysia, Institute of Education, 基調講演。

Tsuneyoshi, Ryoko. Nov., 2013, "The Japanese and American Models of Schooling," presentation at the Institute of Education, International Islamic University Malaysia.

Tsuneyoshi, Ryoko. June, 2014. "Models of Schooling in the Global Age: The Case of Japan," at the International Conference, "Education in Asia in 2013: What Global Issues?", Workshop 2: Knowledge, Curricula and Pedagogy, CIEP(Sèvres)June 13, Paris, France.招待発表。

恒吉 僚子・井田 頼子 2014年6月 「英語による学部講義での『グローバルリーダー』資質育成に関する考察—国立文系学部の講義事例より」異文化間教育学会、第35回大会。

[図書](計2件)

Tsuneyoshi, Ryoko. 2015. "Japanese Approaches to Classroom Management." Sage Encyclopedia of Classroom Management, edited by S. W. George. Sage.

(報告書)

Tsuneyoshi, Ryoko. 2012. *The World of Tokkatsu: The Japanese Approach to Whole Child Education* (A Guidebook for Teachers), March. http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tsunelab/tokkatsu/images/the_world_of_tokkatsu.pdf.

[産業財産権]
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

Japanese Whole Child Education Homepage
[http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tsunelab/to
kkatsu/](http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tsunelab/to
kkatsu/)

本プロジェクトを組み込んだ、学校教育高度
化センターの研究プロジェクト、ホームペー
ジ
[http://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.a
c.jp/works/](http://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.a
c.jp/works/)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

恒吉 僚子(TSUNEYOSHI, Ryoko)
東京大学・教育学研究科・教授
研究者番号：50236931

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：